平成30年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　鴨生田　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B，理科）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の平均正答率より上昇した。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する問題は、正答率が低い。	

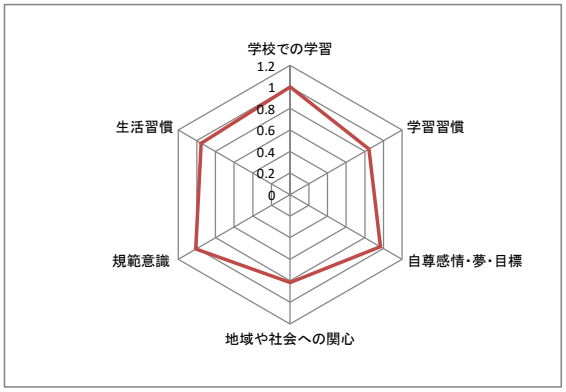
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の北九州市の平均正答率との差を比較すると、その差は縮まった。 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・紹介する文章を基にして、推薦する文章を書くときの工夫について考える問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題は、正答率が低い。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかだが上回ることができた。また、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の北九州市の平均正答率との差を比較すると、本校は上回った。 ・量と測定についての理解に課題があり、構成要素や測定方法についての理解を深める必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	・異種の2つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を選ぶ問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ問題は、正答率が低い。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の北九州市の平均正答率との差を比較すると、その差は縮まり北九州市と同程度となった。 ・示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述することに課題があり、立式の根拠や式の意味を考えることを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするためのたまを投げる時間を表に整理して求める問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・横に並んでいる7つの数について、示された表現方法を適用してかく問題は、正答率が低い。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の北九州市の平均正答率との差を比較すると、その差は大きく縮まった。 ・無回答問題は、1問もなかった。 ・科学的な言葉や概念を理解することに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用する問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ問題は、正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「学校のきまりを守っていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。
・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。
・「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。家庭学習の習慣化を図る必要がある。
・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。教科等の学習において、地域に目を向けた活動や教材を開発したり、地域行事の紹介や参加の奨励を働きかけたりする必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○ 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果による校内研修 （4月18日に実施）
・ 校内で職員による自己採点を行い、正答率の低い問題を確認し、実際に解く。
○ 1単位時間の学習の充実 （5月9日に、学力向上推進担当者による提案授業と、学力向上研修を実施）
・ 提案授業を基にした学力向上研修会を開催し、授業改善に向けた5つのポイント〈①学習規律の確立 ②めあてとまとめの板書 ③発問の工夫 ④話し合う活動と書く活動の充実 ⑤振り返りの時間の確保〉についての共通理解を図った。
・ 家庭学習の取組についての共通理解を図り、全校で実施する。
○ 学力向上のための特設時間の実施
・ 朝自習と朝の裁量時間で、全校一斉に帯取りの[鴨生田タイム]を設定して取り組む。（水～金）
・ 放課後の補充学習を抽出児を対象に取り組む。
（月は3年生対象の「放課後教室」、月・木は4～6年生対象の「裁量型ひまわり学習塾」）
○ 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果による校内研修 （9月5日に実施）
・ 今年度の結果と、経年比較による結果を分析する。
・ 学力調査結果からの課題と対策の共通理解を図る。
・ 生活習慣、学習習慣の調査結果概要からの実態把握をする。
・ 正答率の低い問題を確認し、指導方法についての共通理解を図る。
○ 北九州市学力定着サポートシステムの活用
・ 単元学習の診断的・総括的評価として活用したり、家庭学習における課題として取り組ませたりして、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る。
○ 「書くこと」の習慣化
・ 学習終末の振り返り活動を記述形式で行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 家庭学習への働きかけ
・ 学校通信等で、家庭学習の重要性を啓発するとともに、家庭学習の時間を10分×学年＋10分とし、その時間につり合う課題を与える。
・ 学級指導で、家庭学習への取り組み方の指導を継続して行う。
○ 家庭学習の取組についての校内研修会の開催（5月9日に実施）
・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用方法の共通理解と共通実践を図る。
・ 家庭学習の時間を10分×学年＋10分とし、その時間につり合う課題を与える。
・ 「鴨生田スタンダード」として、全学年統一した自主学習の内容を決めて実践する。
○ 全国学力・学習状況調査の結果、及び分析内容の保護者への周知
・ 学校通信、学校ホームページで発信する。
○ 二島中学校区の小中一貫・連携教育の推進
・ 二島中学校区の1中2小の共通事項としてのきまりを確認し、保護者への啓発も行う。
・ 対人スキルアップ研修と生涯にわたるメンタルヘルス研修を合同で行う。（8月20日に実施）
・ 人権教育研修を合同で行う。（二島中学校の学習参観と講演会 9月27日に実施）
・ いじめ防止プロジェクトとして、二島中学校生徒会による本校児童への啓発活動に取り組む。（11月22日実施予定）